

# 1 これまで3年間（H20～22年度）の取組について

## 1 児童・生徒の状況

### (1) 学習事項の定着（学力）について

#### （成果）

- ・この3年間を通し、年度によつての多少の変動はあるものの全体的には良好な結果が多く見られた。このことより、全体的に見れば基礎的な学力は定着しているものと思われる。

#### （課題）

##### 【国語において】

- ・必要な事柄を選択して順序良く書いたり、文の意味を考えながら接続語を使って内容を分けることに課題が残る。
- ・多くの情報の中から必要な事柄を整理したり、わかったことを自分の言葉としてまとめることに課題が残る。

上記のことから、これまで授業の中に内容を考えて読むことを意識して取り入れたり、自分の考えを順序良く整理して書く作業を取り入れてきたが、より一層の手立てを考えていきたい。

##### 【算数において】

- ・四則混合計算や数の構成の理解が他の問題より正答率が低い。
  - ・多くの情報の中から必要な条件を筋道立てた思考の結果として選択する力が他の問題の正答率より低い。
- 上記のことから、日常的に計算は学習しているが、意識して四則混合計算を取り入れ理解を深める必要がある。また、学習としての算数を生活の中に返すという視点（一般化）で捉えていきたいものである。

##### 【全体として】

年度による違いはあるが、個の抱える課題としての学力と、それを支える集団や家庭についても切り離して考えることはできない。

学校としては朝学習に国語や算数を取り入れ継続的にすすめている。そのため、サポート体制を作り全教職員が支援の必要な児童のいるクラスに入り込む体制作りをしている。また、担任も家庭との連絡を大切にしている。今後も、この体制を維持していきたい。

### 「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の育成について

#### （成果）

##### 「ゆめ力」

- ・将来の夢や目標を持っている児童が多く、今学習していることが役に立つと肯定的に回答していることとつながっている。

##### 「自分力」

- ・学期ごとに「生活チェック」の取り組みもあり、生活習慣はしっかり出来ている。
- ・自分を振り返る学習などにより、自分のよさを認める自尊心も高い。
- ・ルールを守るという意識が高く、特にいじめに対してはこれをしてはいけないと考えている児童が多く、また、友だちとの約束はほとんどの児童が守ると回答している。
- ・人の役に立ちたいと考えている児童の率が高い。

##### 「つながり力」

- ・地域性もあり、地域行事への参加が多く見られる。
- ・ほとんどの児童が、相手の気持ちを思いやり、友だちとの関わりを大切にしていると答えている。
- ・挨拶運動の成果として、進んで挨拶すると回答した児童の割合も高い。

「学び力」

- ・好きな授業があると回答した児童が多いことから、授業に対して肯定的な見方をしていることがわかる。

(課題)

- ・学習に対し将来大切であることは理解できているが、必ずしも意欲と連動しているとは言いがたく、書くという作業や考えるといったことに苦手意識を持っている児童も少なからずいる。日常的に書いたり考えたりする授業をしていく中で、苦手意識を払拭するような授業の工夫をしていくことが必要と思われる。
- ・学習の成果をあげる上で必要不可欠な家庭の教育力について、学校教育に理解を示し協力してくれる家庭が多い中、少数ではあるが基本的な生活習慣が不安定な家庭も見られる。そのため、学力が定着せず、自尊感情も低く低学力に陥っている児童もいると考えられる。担任は保護者との連絡を密にし、家庭訪問を頻繁に行ってはいるが、成果がはっきり出ない悩みがある。これまでの支援体制を強化し、外部機関との連携をさらに図りながら取り組みを進めていく必要がある。

## 2

### 学校の取組

(成果)

について

- ・各々が学力向上に向け、努力目標に「読解力の育成」「書く力の育成」を掲げ取り組みを進めるとともに、生活指導部による「生活チェック」を通し自分の生活の見直しを意識付けてきた。
- ・長期休みに研修会を開き、ワークショップ等で教材の見方や、指導に対する心構えを学ぶ機会を設けた。

について

- ・努力目標として国語科の「読解力の育成」に取り組み、講師の先生と事前に教材の解釈と授業の組み立て方を指導してもらったとともに、研究会では各学年の取り組みや、授業の方向性について討議した。

について

- ・各クラスで「聞き名人」「話し名人」を定着させることで授業規律を確立し、気持ちよく自分の考えを述べることができたり、授業がスムーズに進められている。

について

- ・朝学習に算数タイムや国語タイムを設けることで、基礎的な学力の育成を図っている。

(課題)

どの項目においても、学年部会や各委員会が協力して取り組んでいる。研究授業についても必ず支援の視点をいれ、どの子もわかる授業を目指し研究を進めている。

教師の指導力を高めるために、授業の進め方や指導のポイントを伝え合う場の設定をしていくことも大切になると思われる。

また、基礎的な学力の定着を図るために、朝学習の算数タイムや国語タイムの内容を見直して学力の向上につなげていきたい。

さらに、学校での取り組みを家庭にも伝え、協力を求めているかなければならない。

## 2

## これから3年間（H23～25年度）の取組について

## 1 3年間の重点課題

重点課題	検証軸	25年度の到達目標
児童の生きる力を支える学力の向上を図る	全国学力調査 大阪府学力調査 スキルチェック 算数科診断テスト 指導の仕方の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任と学習支援員との連携を図り、課題を抱えた児童の指導法を探ることにより、レベルアップする。</li> <li>・学校努力目標達成のための自己診断であるスキルチェックを行い、自分のがんばりを確認させることで、自信を持たせる。</li> <li>・国語科における読む（読解力）・書く力をアップする。</li> <li>・国語科の不得意単元（文学的な文章の表現の工夫）を克服する。</li> <li>・算数科の不得意単元（四則混合計算・数の構成・筋道立てた思考）を克服する。</li> </ul>
豊かな人間関係づくりを図る	学校自己診断 学力調査アンケート 挨拶運動	仲間作りを推進し、自己肯定感を高め、学校が楽しいと感じる児童を増やしていく。また地域の方との交流や、地域行事を通し地域と繋がるようにする。
体力の向上を図る 基本的な生活習慣の定着を図る	体力テスト 水泳到達チェック 生活チェック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体幹を鍛える運動を取り入れた準備体操をおこなうことで、体力アップする。</li> <li>・水泳を推進することで、体力をつけ、最終的に学年目標である泳力に9割が到達できるようにする。</li> <li>・生活チェックをすることで、自分の生活を見直し、健康な生活が出来るように意識付ける。</li> </ul>

3年間共通の計画	年度ごとの計画	
<p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校で統一した学習のきまりの徹底を図る。 「聞き名人・はなし名人」</li> <li>基礎学力の定着を図る。 朝の学習タイム設定、実施</li> <li>授業の中に、自分の考えを根拠をはっきりさせて、筋道立てて書いたり説明したりする活動を取り入れ、読む・書く力の育成を図る。</li> <li>気づいたこと・分かったことを発表したり書いたりする活動を学習の中に取り入れ、多くの情報の中から必要な事柄や大切な事柄を見抜く力を養う。</li> <li>研究授業を通し研究を深め、指導法の工夫を図る。</li> <li>学習支援員と担任で連携を図り、学力に課題のある児童を支える。</li> </ul> <p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個性や違いを認め合いともに生きる集団の育成を図る。 研究授業の際に、支援を必要とする児童に対して支援の視点を明記し、改善点等の検討もしていく。</li> <li>不登校対策担当者を決め、現状を把握し客観的に課題点を整理し適切なアプローチを探っていく。</li> <li>集団作りの視点から、みんな遊びや仲間作りゲーム、話し合い活動など、お互いを理解する場の設定をする。</li> <li>地域の人たちとの交流の機会を設定する。 昔遊び交流 稲作り交流 巡視員さんとの交流</li> <li>挨拶運動の励行 毎朝 挨拶当番の高学年児童と職員が門に立ち、挨拶運動を行う。</li> </ul> <p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の定着を図るために、生活チェックを一定期間行い、自分の生活を見直す機会を設けるとともに、保護者へ向けて学校の傾向を発信する。</li> <li>体力の向上を図る。 体育の授業において、準備体操に体幹を鍛える体操を取り入れる。 水泳の授業を通し、泳力の向上を図る。 休み時間の、外遊びを励行する。 日常的に中距離を走ったり、縄跳び・マラソン大会の設定をし目標を持って取り組めるようにする。</li> </ul>	平成23年度	<p>推進体制の確立 計画の共通理解 読む・書く力を育てる研究授業の実施（支援の視点を入れた） 基礎学力の定着 基本的な生活習慣の定着 挨拶運動の励行</p>
	平成24年度	<p>計画の評価と見直し 研究授業の実施 基礎学力の定着 基本的な生活習慣の定着 挨拶運動の励行 学力に課題のある児童への支援 体力の向上（体幹を鍛える運動の導入、水泳の推進） 児童がともに生きる集団の育成 地域住民との交流の場の設定</p>
	平成25年度	<p>取り組みの見直しと検証 研究授業の実施 基礎学力の定着 基本的な生活習慣の定着 挨拶運動の励行 学力に課題のある児童への支援 体力の向上（体幹を鍛える運動の充実、泳力の向上、目的を持った活動） 児童がともに生きる集団の育成 地域住民との交流の充実</p>

3 推進体制

